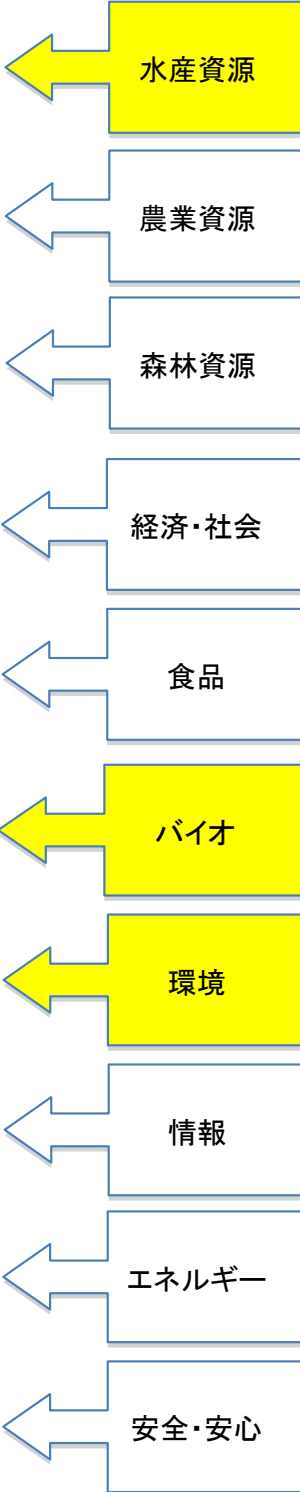


魚介類不明病の原因究明

三重大学大学院生物資源学研究科・一色 正



概要

- 海産魚類養殖では様々な魚病が発生し、甚大な産業的被害をもたらしています。
- しかし、その原因が究明されていない不明病も数多く存在しています。
- 本研究では、微生物学および病理組織学的検査によって原因を究明します。

キーワード

魚類, 養殖, 魚病, 原因究明, 診断, 微生物検査, 病理組織検査, 電子顕微鏡観察

研究内容／実施例

- ・低水温期に養殖ヒラメに発生して大量死を引き起こしていた疾病は、欧州や北米で古くから知られているVHSウイルス感染症であることを究明しました。
- ・1989年以降に同一の種苗生産場で度々発生していたマコガレイ仔稚魚の疾病は、アクアレオウイルス感染症であることを究明しました。
- ・原因が究明されたことにより、これら不明病の具体的対策に関する研究も開始され、それらの成果に基づき被害の軽減が図られています。

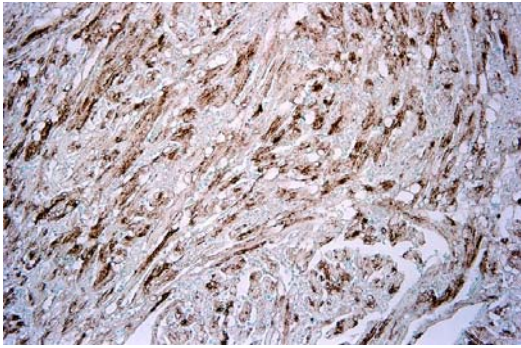


図1 VHSウイルス感染症病魚の心臓の酵素抗体法染色像。ウイルス抗原陽性部位が茶褐色に染色されています。



図2 VHSウイルス感染細胞の電子顕微鏡写真。細胞の間隙に砲弾型を呈する多数のウイルス粒子が認められます。